

どのした淵

【町道・農道払い おやつとさあ !!】

9月17日に「町道・農道払い」作業に従事して頂きました。早朝（7時・4班は6時）からの作業にもかかわらず、御出役いただき有難うございました。残暑の中ご苦労様でした。

例年の作業場所に加え、ふれあい広場・国道504号沿いの除草もやってもらいました。前日には4班の作業支援で久木野大平線の除草と、10月8日から始まる国体で訪れる皆様を、もてなすための一助になればとインター周辺の除草も行いました。



世帯数も減少する中、全員参加のボランティア活動による運営も取り入れ、世帯代表以外の皆さんもご参加いただき助かりました。

今後各世帯1人の出役という慣習に足らわれず、居住者全員一丸となった事業推進による、

『皆で紡ぐふるさとの創造』に努めましょう。

5年度のテーマは『気づき・動き・紡ぐ』です。

発行責任者

高峰公民会長

三 腰 善 行

090-1089-9432

令和5年10月1日発行



【グラウンドゴルフ交流・懇親会】

ふれあい広場で4年ぶりに行われ、にわか雨に惑わされながらも5ホール（2ラウンド）のプレイを楽しみました。晃太（コウタ）さん、愛音（アイネ）さん兄妹（史宏さん宅）も参加してくれました。次回はさらに多くの公民会員で賑やかに出来たらいいですね。また、ゲーム終了後、公民館で懇親会も開催し、上位3人に賞品（焼酎）が贈られました。1位（三腰修一）2位（大平ユミ子）3位（川平光広）…2・3位は同点でした。コロナ禍で様々な催しが中止になり、何も無い事に慣らされてしまいました。動き出さなければ何も始まりません。未来を見据えて再起動しましょう。



5年度のスローガンは『語り合い・共生協働による村づくり』です。

だかね寺小屋 【西郷隆盛の人生訓】
小説家童門冬二「西郷隆盛の人生訓」抜粋

■人を騙すよりも人に騙される

西郷隆盛の人生観として、彼は人を騙すのが嫌いだった。騙すよりも騙された。そして、そのことの方が人間として幸福だと思っていた。それは彼の頭の中には常に天という存在があったからだ。人は騙せても天は騙せない。ということを知っていた。だから、人間を騙すということは天を騙すことになる。決してそういうことはしてはならない、と彼自身を自分をそういうように厳しく律していた。

しかし、こういうことは西郷だからこそできることであって、現代のように煩わしく、また、人間の処世術が言細やかにマニュアル化された社会では、なかなか行えない。だからといって西郷のこの言葉は、やはり一面の真理を突いている。そういう生き方をしている人も多い。しかし、そういう生き方をしている人は、えてして組織内でも馬鹿をみることが多い。西郷は、たとえ一時的に馬鹿をみても、どこかで天が見ている、迂遠の道のように思えるだろうが、人を騙さないで職務に精励すれば、必ずいい報いがあるだろうと慰めてくれるのだ。必ずいい報いがあるかどうかは、これまた難しい。

【田の神講 田の神さあもお色直し】



【国体花育てリレープランター設置】



いよいよ8日から始まる国民体育大会の花育てリレーに申込・参画し、配布された花をプランターに植えインター正面に配置しました。選手はもとより関係者、応援にこられる皆様の励ましになれば幸いです!!

【10月行事予定】

- ◆ 国民体育大会 8日～12日
全国各ブロック代表の高校生ラグーマンが一堂に集います。花園常連校の選手ももちろん出場します。高校トップレベルの迫力あるプレーを身近に体験できるまたとない機会です。是非1試合だけでも観戦ください。
- 因みに鹿児島県代表は8日(日)の第3試合(13時50分)で神奈川県と対戦いたします。場所は、北薩広域公園運動広場・かぐや姫グラウンドです。
- ◆ 資源ごみ回収日 4・18日
- ◆ 不燃ごみ回収日 16日
- ◆ 町文書発送日 5・19日
- ◆ 町道泊野線(旧国道504号)通行止め
10月2日から2月29日までの工期で災害復旧工事の為、通行止めになります。御注意ください。区間はきさらぎインター付近から堀切峠までです。紫尾山頂へは出水側からは行けるそうです。
- ◆ 10月に計画しておりました、ボランティア活動は、町道・農道払いの時に、作業箇所を増やして除草をしていただきましたので作業は行いません。
- 【11月行事予定】
- ◆ 町駅伝競走大会 12日
- ◆ 産業祭&JA農業祭 19日
- ◆ 大山祇神社祭り21日(火)当番3・4班
- ◆ 秋の全国火災予防運動 21～30日
- ◆ 資源ごみ回収日 1・15・29日
- ◆ 不燃ごみ回収日 13日
- ◆ 町文書発送日 2日(1回のみ)
- ◆ 紫尾山清掃(通行止めにより美化活動として12月実施)
- ◆ 12月3日(日)には、美化活動・マウンテンゴルフ・グラウンドゴルフがいつどきまともて行われる予定です。参加、出場よろしくお願ひします。

ふるさと回顧録

『泊野に生きて』 大阪府八尾市 久木野正志

第4章 冬(12月～2月) NO2

● はなし(メジロ) 獲い・・・椿の花によく来た。トリモチを枝に巻き付け、はなし籠にみかんや柿を乗せおとりのはなしを鳴かせた。からいもと菜っ葉をすり鉢で搗って飼った。

● 囲炉裏・・・ジゼカッ(自在かき)を上からつるし、鍋、鉄瓶などをかけ、自在に高さを調節。竹の根っこを芸術的に残し創っていた。隅にゴトクと火鉢。シヨコ(宴会など)でよくろたおじさんがへ(灰)を足に付けていた。

● 外風呂・・・屋根も壁もない。石風呂は薪で焚くが沸くのが遅く、五右衛門風呂は敷き板を子どもは上手できない。内風呂はだいたいぶたってからである。

第5章 泊野小学校時代(昭和32・4～38・3)

● ピーク・・・昭和34年私達が3年の時、全校生徒が240名程いた。卒業生名簿からこの年がピークだった。

● 近道・・・楠八重や市野、久木野から通う子供には便利だった。南国バス庫庫横を通り、農協事務所建物裏(石垣)に木造の通り道(人専用)があった。下は散髪屋さんと豆腐屋さんの間に出る。十字路を通るよりはるかに近かった。

● サワガニ・・・雨の中、登下校途中 沢蟹が道をよく横切った。また、ヘビも横切るが右から左なら男、左から右なら女にお金が入ると大人から言われた。襟の合わせ方の違いか。

次号は 泊野小学校時代(昭和32・4～38・3) NO2をお届けします。お楽しみに!!